

新しい時代へさらなる飛躍

神奈川県更生保護女性連盟

海の幸、山の幸に恵まれた横須賀地区は、人口約40万人の中核市で、更生保護女性会は昭和35年に結成されました。現在の会員数は230名です。

主な活動を御紹介いたします。

年度初めに総会を開催し活動がスタートします。

- ◎研修会・講演会・県更生保護大会・ブロック研修
横浜保護観察所主催や県連盟主催の研修会は会員が積極的に参加し終了後は大変勉強になりましたと好評です。特に日更女会長千葉景子先生の講演は大変人気があります。当会主催の子育て支援活動は市教育委員会の講師による講演で幼児期・小学生・中学生の三段階に分け行いました。私達が孫を預かった時に現代の子育てが参考になり喜ばれ、ミニ集会も地域との連携が深まり警察官のオレオレ詐欺の話も好評でした。
- ◎社会を明るくする運動・社会貢献活動への参加
毎年当会が企画し保護司が後援の会です。地元の小・中学生が出演しダンスや吹奏楽演奏は保護者や近隣の人達の応援があり会場一杯に盛り上がり社明運動の啓発に効果も充分上がりました。時には中学校の校長先生の講話もあり近頃の中学校の状況も知る事が出来ます。30年度は県警音楽隊による素晴らしい演奏を聴き心洗われる素敵なひと時を過ごす事が出来ました。
- ◎施設見学研修会・保護司会との交流会
市役所のバスを提供して頂き地方裁判所や矯正施設の見学を実施しています。30年度は最高裁判所とスカイツリーの見学をしました。格式ある建物と裁判の内容説明を受け有意義な研修でした。
- ◎矯正施設への支援・久里浜少年院・刑務支所
両施設の運動会、矯正展の手伝い、成人式への参列。式の内容が素晴らしく記念品母の鈴は会員が更生への心を込めて作成し喜ばれています。
- ◎広報誌「ぬくもり」は年間1回発行しています。
- ◎新しい時代への活動

5月より新元号になり当会も内容のさらなる飛躍として「社会福祉活動」との連携や次代を担う小学生への支援等新時代に期待しております。



(横須賀地区 永嶋 律子)

青少年健全育成活動～中学生と共に～

新潟県更生保護女性連盟

佐渡地区更生保護女性会は、平成17年度から一貫して、青少年健全育成活動に取り組んでいます。日本で一番大きな島、世界遺産登録を目ざしている島から、犯罪や非行のない明るい島にしたいとの思いから始めました。

島内には現在14校の中学校があります。毎年一校を選び、地元のお祭やイベントに合わせて活動時期を決め、先ず校長先生に趣旨をお話し協力を求めるのです。

中学生が一番多感な年頃であり、純粋な心で犯罪や非行に対して向き合うと考えられます。その気持ちを絵と言葉で表現してもらい、A4サイズ用の紙にポスターを書いて頂くのです。

出来上がった作品を縮小し、「しおり」サイズにカットし、そこに色とりどりのリボンを付けて完成します。毎年1000枚程度作成します。

日時が決定すると地元警察署を訪ね、協力を求めます。また、中学生の参加を得ての活動なので、市の教育委員会の後援もお願いします。安全安心まちづくりの趣旨のもと、どの行政機関も協力的で許可を出して下さいます。

準備万端!!いざ呼びかけ運動の開始です。中学生も生徒会を中心に当日参加します。それに伴い校長先生や担当の先生等、多い時には40名以上の時もあり、感謝の気持ちでいっぱいです。

警察署員や男性保護司も、忙しい中皆様駆け付けて下さいます。

活動する時は、しおりの他に更女からのメッセージやティッシュ等を入れ、一袋ずつ地域の皆様に中学生と一体となって、「犯罪や非行のない明るい社会づくりに御協力お願いします!!」と呼びかけ手渡しします。「御苦労様、頑張ってくださいね」と激励して下さり中学生も笑顔で応えながら、また呼びかけ運動を続けてくれるのです。

青少年健全育成活動は、佐渡地区の一番大切な行事です。島民が安心して暮らしていけるよう、更女会はこの活動をこれからも毎年続けていきたいと思っております。



(佐渡地区 萩田 章子)

大月地区の取り組みと現状

山梨県更生保護女性連盟

大月地区更生保護女性会では、子どもたちの健全育成を目指し日々活動しております。

大月地区では人口減に伴ない地域でも子どもに会う機会は減多にない中、平成28年度には「地域との連携・協働活動推進地区」の指定を受けました。このような現状の中、どのようにしたら子どもたちと触れ合いながら啓発・実践をしていけるか皆で考えたところ、「待っているのではなく、私たちが子ども達の中へ飛び込みましょう」という認識から学校訪問活動をするに至りました。

そこで何をしたら良いのかと悩みましたが、昨今子ども達の不幸な出来事がニュースで取り上げられていることから、子ども達が事件や事故に巻き込まれないように、警視庁生活安全部考案の「イカのおすし」を使った防犯教室を行う事となりました。それからは、経済的に苦しい地区ですからインターネットで無料の紙芝居、そして踊りはユーチューブで「イカのおすし一人前」を探し、全員で練習を始めました。平均年齢70才という私達は踊りを覚えるのも大変でしたが、皆が精力的に取り組んだ結果、幼・保育園及び小学校での実践は非常に喜ばれ、「来年度もお願い出来ますか」という声にお応えして、現在も年間4つの園や小学校を訪問して防犯教室を実践しております。

最初は紙芝居だったものが、今では寸劇に変わり、各園や小学校の先生にも一緒に参加していただいています。自分達の先生が寸劇に加わることで子ども達は一層喜び、防犯の意識も高まります。

今後も「母の鈴作り」「社会を明るくする運動」「食事作りボランティア」に加え、「イカのおすし」の防犯教室をメインに活動して行きます。

今年度から先の事も考えて、ミュージックベルの練習も始めました。これが中々会員の脳の活性化に役立っているようで、来年度は「イカのおすし」と共に、ミュージックベルも披露できるように、楽しみながら互いに助け合い、一丸となり練習に励み、子ども達のために頑張っています。



(大月地区 井上 里江)

新しい時代に向かって

—存在感のある団体として—

長野県更生保護女性連盟

南北に長い長野県（信州）はその気候も生活している人たちの気性も違うものがあります。北信、東信、中信、南信と4つのブロックに分け、その中に22の地区会があります。平成の大合併によって飛び地のような地区もあり、それぞれの行政との関わりも違い、難しい運営をしているところもあります。しかしそれも地区会長さんたちの努力もあって、徐々に良い方向に向っているようです。

各地区会は子育て支援を中心に犯罪予防活動・社会を明るくする運動への参加など、行政との連携活動にも力を入れております。特にモデル地区に指定された地区会は、それを機に行政を巻き込んで更生保護活動への理解と関心を深めております。モデル地区になったことにより地区内の各地域がバラバラに活動していたのがひとつになって結束力が高まり、その後の活動にも活力が生まれるなど成果が窺われます。

長野県は平成28年に「貧困に特化した多機能的子どもの居場所づくり」を策定しました。そこに更生保護女性連盟としてテーブルに着くことを要請されました。子どもたちの赤裸々な手記を目にした時、子どもの貧困が思っていたより深刻であることを知りました。次代を担う子どもたちが夢を持って生きられるよう何が出来るだろうかと考えました。既にモデル事業として子ども食堂を始めていた地区もありました。単に食事の提供をするのではなく学習支援や話を聞いてあげるスタッフが寄り添い、そこが子どもたちにとってほっとできる居場所であることが何よりも大切であると思います。

貧困と思われる子どもたちの姿は守秘義務に守られて情報は外に出ることはありませんが、要保護家庭は確実に増えております。子育て支援を活動の柱としている更生保護女性会こそ、その子どもたちを含めて安心して生きられる地域づくりに力を注いでいかなければと思いました。

地域づくりは、地域全体が連携しなければ叶うものではありません。「地域を編む」ことは簡単なことではありません。しかしながら地域には私達と意思を同じくする団体が必ずやあるはずで、積極的なはたらきかけを心掛け、何年たっても「更生保護女性会って何」と云われないよう、新しい時代に向って存在感のある団体として認められるよう頑張っていきたいと思えます。



(文責 笠井嘉代子)

「冠講座」の輪がもっと大きく

静岡県更生保護女性連盟

3月16日、県立掛川東高等学校において、更女第5回目の冠講座が開催されました。

『冠講座とは、更生保護女性会が講師料を助成（寄付）して開催される講座』の事です。3万円を助成して、後はすべて学校側に委ねられます。

5年前、当時児童虐待やいじめ問題が世間を騒がせ、会長であった戸塚久美子さんの発案で「将来親となるであろう高校生に命の大切さ、尊さを知ってもらおう」と始まりました。

市内に4高校あり、今までに「お母さん、産んでくれてありがとう。」や「携帯・スマホ・インターネット講座」が開かれました。

今回のテーマは「自分らしく生きる」。講師はオネエアーティスト緑の妖精トシ子ちゃんでした。生徒488人と教師、更女会員も希望者29名が参加して一緒に受講致しました。

妖精のような斬新な衣装で明るく登場されたトシ子ちゃんは、高校生に盛大な拍手で迎えられました。世代の違う私達は少々引ききみ……出身が近くの浜松市と伺って、親近感を覚えました。

幼稚園の頃から周囲と違和感を抱き、ひどいじめにも遭い、親にも言えず、自分らしく生きたいと、26才で先輩に誘われて上京する。

造花アーティスト、衣装デザイン等々苦勞を重ねながら、自ら動き現在は芸能人の衣装デザインなどを手がける仕事をつかんだ。そして「私には話せる居場所があった。皆さんにもきつといい出会いがある」と結ばれた。

生徒達から「自分らしさや生き方を考える機会になった」「自分から行動を起こすことも大事。」等々の感想文が寄せられました。これからを生きる高校生達に、沢山ある道しるべのひとつになったのではと思われました。

この冠講座は27年度より、県連盟の活動にも取り入れられ、広がりを見せております。今一度若い彼らに命の大切さ、尊さを伝える事も私達更生保護女性会の大切な役割かも知れません。冠講座の輪が大きく広がって行く事を願っています。



写真提供 静岡新聞社
(掛川地区 渥美 敏子)

結成60周年を迎えて

山梨県更生保護女性連盟

平成30年6月13日甲府市常磐ホテルに於て、結成60周年記念「山梨県更生保護女性の集い」を、後藤斎山梨県知事、千葉景子日本更生保護女性連盟会長をはじめ多数のご来賓の方々と会員400名の参加により、盛大に開催しました。

中込文江会長は式辞でこれまでの歩みを継承しつつ、時代のニーズに合った活動を推し進め、住みよい地域づくりにさらに積極的に取り組もうと決意を述べました。

日更女千葉会長の「信玄公も微笑むもう一つの“風林火山”」と題した記念講演では、山梨更女のあるべき姿を示していただき、感銘を受けました。最後に全員で「愛をみんなで」を大合唱し、61年目の活動に向けて絆を深めました。



2019年度 関更女会員研修のお知らせ

と き 2019年9月18日(水)
と ころ さいたま市中央区、ホテルブリランテ武蔵野に於て開催する

更生保護制度施行70周年記念全国大会

と き 2019年10月7日(月)
と ころ 東京国際フォーラム

更生保護制度施行70周年記念 第37回関東地方更生保護大会(仮称)

と き 2019年10月25日(金)
と ころ 栃木県宇都宮文化センター

地域との連携・協働活動推進地区を受けて

地域との連携・協働活動に まず一歩

私達会員の話題によくのぼるのは、更生保護女性会の認知度の低さです。何とかしなければと毎年2回実施している広報活動を、今年度は見直して取り組むことにしました。

9月、ボランティアフェアに参加しました。新潟市中央区ボランティア・市民活動センターに登録している団体によるイベントです。多くの人に知ってもらいたい、仲間になるためのきっかけになるよう、来て見て聞いて体験して感じてもらえるように参加団体が協力して作り上げていきます。昨年度、私たちは初めて仲間入りをしました。

「随分難しい名前の会ですね。」「何処でどんな活動をしているの?」等と初めて知ったとの声に、地域にもっと出ていかなければと強く感じ、今年度も参加を決めました。今年度は24団体で運営会議のスタートでした。初回の顔合わせ会としては、各団体の活動報告や会員の減少・高齢化といった課題、各団体との相互連携など様々な話題があがり賑やかな幕開けでした。全団体で会場のブース作りや飾り付け、ステージの準備を行い、当日を迎え、更女のブースは“親子で体験お抹茶コーナー”を中心に、ほごちゃんサラちゃんの紹介をしながらの活動紹介、

新潟地区更生保護女性会（新潟県）

会員の手作り品の販売もしました。お抹茶コーナーは初めての取り組みでしたが、多くの人から好評を得



ることができました。また、今後の入会につながる手応えも感じることができました。

11月、地元の消防署と食生活改善推進員を講師に迎えて「地域で暮らす、安全安心のために」をテーマに講座を実施しました。災害時に役立つ初期対応の実践とパッククッキングの体験、試食を組み合わせた内容です。会場や講師との交渉は会員の人脉が力を発揮し、参加者から更女の活動の幅広さに驚かれながらも、「いい企画だった。次も楽しみ。」と喜んでもらいました。

最近、保護司の皆さんから、更女は楽しそうですねと声をかけられます。会員が元気に笑顔で活動することが一番の広報活動だと思いました。

心も体も暖まる集いになりました

この度「地域との連携・協働活動推進地区」の指定を受け、何をどのように行うのかと、会員一丸となって検討しました。そして、峡中地区内の7支部が、各支部で長年地域に密着した更女の活動として継続的に行っている、子育て支援の推進・地域の見守り隊・挨拶運動・母の鈴作り・保護司会が行う出前授業への参加等の活動を、時代の変化に応じながら会員相互の絆を深めながら進める一方で、指定を受けたことにより助成される活動費を有効的に使って、この時だからこそできる事業に取り組むことに致しました。

「かけがえない命を自分で守る心と体づくり」と題した講演と実技の集いです。命の大切さと守り方を伝えたい、という思いで活動を続けているボランティア団体「リズムオブラブ」主宰の渡辺光美さんを講師に招きました。実施までの流れとして、まず保護司会への協力を求め、教育委員会・小学校・保育園・幼稚園の協力をいただきました。チラシを作成し、小学校・保育園等を通して子供達に配布してもらい、周知を計りました。会員一人一人が積極的に周囲の人々に呼びかけて参加を募りました。

峡中地区更生保護女性会（山梨県）

当日は、子供達が父親や母親と手を取り合って会場に足を運んで下さり、中にはおばあちゃんも一緒に家族ぐるみとい



う微笑ましい光景も見られ保育士さん、保護司会・更女の会員も含め、総勢170名の参加者で会場内は熱気に溢れました。渡辺講師の、子供達にわかり易いようにカードを使って「命の尊さ」を伝えるお話と、走る・飛ぶ・投げる・蹴る等の運動を用いて、危険察知・回避能力を身につけるためのリズム体操はとても楽しく、時間が経つのも忘れて心地良い汗をかき、盛会に終わりました。地域の人々が、多世代が、一つのネットワークになって、安心して暮らせる社会・笑顔が増える社会になることを望んで、この事業が一過性のものに終わらず、どのような形で継続していったら良いのか、現在模索中です。

30年度地域との連携・協働活動を実施して

上田地区更生保護女性会（長野県）

上田地区更生保護女性会は、長野県の東部で、日本のほぼ中央に位置し、山々に囲まれNHKの真田丸の放映もされた自然豊かな地域です。平成18年の市町村合併により4支部が上田市となり活動しております。今年度役員改選もありましたが、全員力を合わせ支え合って、今まで通り子育て支援を中心に活動することに決めました。

第一は、10年前からかかわって来ていた、地区の児童館まつりの実行委員の会で相談しところ、今まで以上に充実した事業にしようということになりました。

当日は親子での参加者も多く、とてもにぎやかに実施することができました。終了後反省会の際、みんな楽しくできましたが、今回の会場に遠くて参加できない子供たちが居るとの声がありました。

後日、他の場所でおにぎり汁でほっこりしようと決まり、後日の開催も大学生の協力もあり、遊び笑いなど盛大にできました。もう一つは、昔のおやつ作りをとの声がかかり、小学校のクラブ活動に協力したところ、子どもたちにお礼の手紙をいただきうれしかったです。

第二は、お手玉作りを教えていただき、昔の遊びで子供広場や小学校で交流し、若いお母さんの参加もあり更女を知ってもらい、他の会場からも声がかかり好評を得ています。



第三は、以前から更女会の活動の一つとして、子ども食堂をやったらどうかと考えていました。公民館などに相談したところ、他の関係者の協力もあり、11月に上田市で6カ所目の子ども食堂が発足できました。予想以上の参加があり、これからも楽しみながら毎月一回続けて行く予定です。

以上全支部で、子育て支援にかかわって活動したことで、より積極的に、地域と連携することができ、地域全体に更生保護女性会を知ってもらえる良い機会になりました。

「地域との連携・協働活動推進地区」の指定を受けて 菊川地区更生保護女性会（静岡県）

菊川市の人口、総数47850人。地区会員数96人（30年4月）。静岡県の西部に位置し、1級河川「菊川」の中流域に広がる菊川市は、遠州と信州を結ぶ「塩の道」など古くから南北の交通要所として栄えた町です。

本年度「地域との連携・協働活動推進地区」の指定を受けて、当地区の主な活動である子育て支援活動、社会を明るくする運動等で交流を図っている保護司会と、共通の目的である健全な子供達を育てる為の活動をしている、青少年健全育成市民会議との3者会で、「連携協働活動」を推進することになりました。更女会についての活動内容を紹介し、理解を深めて貰い、今後の活動をどのように連携していくのが良いか、3者会で年度始めより話し合いを重ねてまいりました。相互に他団体の活動内容を知ることで新たな連携が図れるのではないかと意見が多くあり、「講演会」と「交流会」を実施することにしました。

開催日は9月と決定。第1部の「講演会」には静岡保護観察所の宮山芳夫企画調整課長に講師を依頼し、演題は「更生保護～地域のチカラ」です。内容は、更生保護とは何か、再犯防止のために何が大切かを分かりやすく講演して下さり大変好評でした。

第2部の「交流会」は、3グループに分かれて、なごやかな意見交換が展開されました。



相互の活動を知り理解を深めながら今後の連携活動に向けて充実した話し合いができました。

今回の「地域との連携・協働活動推進地区」を実施しての反省点は、更女会の活動を知らない人が多かったことです。今後は、知名度を高める為に積極的な広報活動の推進につとめます。3者会だけではなく、広い範囲に参加の呼びかけを行います。今回の指定を受けて、地域との連携を繋げる話し合いができた事は大変良かったと思います。更女会の活動を地域に広げる為の良い機会を与えていただき今後の励みとなり感謝いたします。子育て支援・社会を明るくする運動等、女性の立場で出来る社会づくりに貢献してまいります。

平成31年度主要行事予定(案)

行事名	期日	会場	備考
会計監査	4月3日(水)	関東地方更生保護委員会	第2研修会議室
常任委員会	4月10日(水)	関東地方更生保護委員会	第2研修会議室
協議員会	5月16日(木)	関東地方更生保護委員会	第1研修会議室
常任委員会	7月17日(水)	関東地方更生保護委員会	第2研修会議室
会員研修	9月18日(水)	さいたま市中央区ホテルブリランテ武蔵野	
常任委員会	12月5日(木)	関東地方更生保護委員会	第2研修会議室
常任委員会	2月12日(水)	関東地方更生保護委員会	第2研修会議室

平成31年度版更女会員手帖の販売

皆様のご要望を取り入れながらスタイルを改定した手帖は、おかげ様で好評をいただいております。今年も多くの方の皆様にご利用いただきたくご案内いたします。巻末に、更生保護機関一覧(全国)、国内の主な郵便料金・荷物の運賃表、年齢早見表・住所録がついています。



一冊650円



更生ペンギンのホゴちゃんとサラちゃん

旭日大授章

日本更生保護女性連盟会長

千葉 景子 様

おめでとうございます。

瀬戸山賞

埼玉県更生保護女性連盟

おめでとうございます。

あ と が き

「平成」の終りが近づいています。次の元号は？等話題にしながら、「関更女だより」42号の編集を進めました。

関更女研修が、隔年でさいたま市と各都県に於て開催することを決定し、今年度がその初年度です。埼玉県長瀬での研修を、講演を中心に掲載しました。また本年度「地域との連携・協働活動推進地区」指定を受けた4地区会には、現在取り組み中の様子を寄稿していただきました。

このたよりを、各都県更女の新年度活動の参考にしていただけたら幸いです。ご寄稿いただいた方々はじめ多くの方のご協力に、心よりお礼申し上げます。編集委員一同



編集・発行

関東地方更生保護女性連盟会長 井坂 たけ

第42号編集委員 朝倉 節子 中込 文江

栗田 治江 高橋 徳子